

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学・通信）

事業者名： _____

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画			
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数		実施内容	
1	職務の理解 6時間	1	職務の理解 6時間	1	職務の理解
	(1) 多様なサービスの理解	(1)	同左 3	(1)	講義及び演習：グループで介護保険サービスと介護保険外サービスについて話し合う。
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	(2)	同左 3	(2)	講義のみ
2	介護における尊厳の保持・自立支援 9時間	2	介護における尊厳の保持・自立支援 9時間	2	介護における尊厳の保持・自立支援
	(1) 人権と尊厳を支える介護	(1)	同左 4	(1)	講義のみ
	(2) 自立に向けた介護	(2)	同左 5	(2)	講義、演習：介護における自立について討議する。
3	介護の基本 6時間	3	介護の基本 6時間	3	介護の基本
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	(1)	同左 1	(1)	講義、演習：グループで介護と看護の違いを検討。地域医療との連携方法を考える。
	(2) 介護職の職業倫理	(2)	同左 1	(2)	講義：基本的人権の尊重、個人情報、守秘義務に関するミニテストの実施。
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	(3)	同左 2	(3)	講習及び講義、演習：事例に応じた職務におけるリスクとその対応策を討議。
	(4) 介護職の安全	(4)	同左 2	(4)	講義、演習：グループで介護と看護の違いを検討。地域医療との連携方法を考える。

別記第1号の2様式

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	
(1) 介護保険制度	
(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解 6時間	
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解 6時間	
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1) 同左	3	(1) 講義、演習:2人一組で事例に応じ介護度、介護サービス内容を確認作業を行う。
(2) 同左	3.5	(2) 講義のみ
(3) 同左	2.5	(3) 講義のみ:医療行為・看護と介護の違いの簡単なミニテスト
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間		5 介護におけるコミュニケーション技術
(1) 同左	3	(1) 講義、演習:障害に応じた対応方法を理解するため、2人1組でコミュニケーション方法を体験する。
(2) 同左	3	(2) 講義、演習:2人1組で用意した写真から状況を読み取り対応方法の検討。介護記録の書き方の体得。
6 老化の理解 6時間		6 老化の理解
(1) 同左	3	(1) 講義、演習:ところとからだの変化やその対応、留意点についてグループで検討し発表する。
(2) 同左	3	(2) 講義のみ
7 認知症の理解 6時間		7 認知症の理解
(1) 同左	1	(1) 講義のみ
(2) 同左	2	(2) 講義のみ
(3) 同左	2	(3) 講義及び演習:複数の具体的事例を示し、認知症利用者への対応をグループで検討、発表。
(4) 同左	1	(4) 講義のみ

8 障害の理解		3時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 75時間		
ア 基本知識の学習		10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50~55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(9) 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		

8 障害の理解		3時間
(1) 同左		1
(2) 同左		1
(3) 同左		1
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 75時間		
ア 基本知識の学習		13時間
(1) 同左		6
(2) 同左		4
(3) 同左		3
イ 生活支援技術の講義・演習		50時間
(4) 同左		7
(5) 同左		6
(6) 同左		5
(7) 同左		5
(8) 同左		5
(9) 同左		5.5

8 障害の理解		
(1) 講義のみ		
(2) 講義、演習:聴覚・視覚を使わず歩く当の体験をし、対応方法を学ぶ。		
(3) 講義、演習:複数の具体的事例を示し、障害受容野ICFについてグループで検討、発表。		
9 こころとからだのしくみと生活支援技術		
ア 基本知識の学習		
(1) 講義のみ		
(2) 講義のみ		
(3) 講義、演習:ボディメカニクスを用いた基本動作を体験し、からだに負担の少ない動きを体得する。		
イ 生活支援技術の講義・演習		
(4) 講義及び演習:経験してきた家事をグループで発表し、様々な様式、方法価値観を知る。		
(5) 講義及び演習:車いす、杖等を使用し、家庭内での事故や居住環境での留意点と支援方法を発表。福祉用具使用の理解・体得を進める。		
(6) 講義、演習:2人1組で利用者と介護者に分かれ、衣服の着脱を練習する。		
(7) 講義、演習:2人1組で利用者と介護者に分かれ、ベッド、車いす間の移乗や車いすや杖での移動の練習をする。		
(8) 講義、演習:2人1組で利用者と介護者に分かれ、食事を食べさせあい、歯磨きをしあいながら介助の練習をする。		
(9) 講義、演習:グループで利用者と介護者に分かれ、事例に応じた清拭、手足浴、洗髪の方法を体得する。		

別記第1号の2様式

(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	
(実習)* (50~55時間中12時間以内)	
介護実習 ○時間	
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間	
在宅サービス提供現場見学 ○時間	
ウ 生活支援技術演習 10~12時間	
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	
10 振り返り 4時間	
(1) 振り返り	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
追加カリキュラム	
計 (130時間)	

(10) 同左	6
(11) 同左	5.5
(12) 同左	5
(実習)* 時間	
ウ 生活支援技術演習 12時間	
(13) 同左	6
(14) 同左	6
10 振り返り 4時間	
(1) 同左	3.5
(2) 同左	0.5
計 (130時間)	

(10) 講義、演習:グループで利用者と介護者に分かれ、事例に応じたベッド上での排泄ケア、陰部洗浄、トイレ介助を実技演習で体得する。
(11) 講義、演習:グループで利用者と介護者に分かれ、事例に応じた安眠のための寝室作り、安楽な姿勢褥瘡予防方法を実技演習で体得する。
(12) 講義のみ
(実習)*
ウ 生活支援技術演習
(13) 講義及び演習:グループで事例に応じたアセスメント、ケアプラン作成、モニタリング、フィードバックの一連の流れを行う。
(14) 講義及び演習:2人1組で事例に応じた介助の一連の流れを在宅又は施設でのサービスを想定し実技演習実施。
10 振り返り
(1) 講義及び演習:研修を通して、介護や福祉への自分の変化を発表。
(2) 講義及び演習:就業するにあたり必要な言葉遣い、マナー、身だしなみ等の研修。

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。